

ふれあいボランティア活動 感想文集



平成 29 年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

平成二十九年年度ふれあいボランティア活動感想文集

発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなが助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（ボランティア活動の中でも人とふれあって行うことを特に重視したボランティア活動のこと。以下、活動という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えられています。当センターは、その活動を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート」を学校や団体に提供しています。

「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」は、児童生徒のボランティア活動のきっかけ（動機付け）や継続を支援するためのツールとして平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団において開発され、今日にいたるまで全国の小中高等学校、団体等で活用していただいています。（平成三十年三月現在、一五九校・一団体、四万六千九百八十六人の児童・生徒が参加しています。巻末参照）

ふれあいボランティア感想文の募集の趣旨は、児童、生徒が、このパスポートを活用しながら、自らが取り組んだボランティア活動について感想や思いを書き、自らの活動を振り返ることにより、自分の心の変化や成長、他者との共助の楽しさ、内から湧き出る意欲などに気づき、認める機会としていただきたい、というものです。

第六回目となる平成二十九年年度は、五百五人の小中高校生のみなさんに応募していただきました。小学生は例年、多くの皆さんから応募をいただきます。今年も応募数の約七割、三五〇点は小学生の感想文でした。中学生からの応募数は八点と少なく、中学生賞の受賞者は三人となりました。高校生は学校数は少ないですが、一〇七点の応募をいただき、大変うれしく思っています。

選考委員長には引き続き、「3年B組金八先生」などの脚本家である小山内美江子先生にお願い致しました。（P2参照）ここに、受賞者十四名の感想文を掲載しています。参加校、団体の指導者の皆様には、児童、生徒が地域社会で自助力と共助力を育むふれあいボランティア活動を、積極的に奨励していただきますよう、何卒、よろしく願いたします。

平成三十年三月一日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長

有馬正史

ふれあいボランティアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。ダウンロードできます。（URL：<http://www.ssc-tpo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数505点（小学校10校1団体350点、中学校

6校48点、高校4校107点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年

若林 美優さん

【小学生賞】（7人）

鹿児島県南九州市立中福良小学校2年

山村 悠斗さん

千葉県栄町立竜角寺台小学校4年

江村 竜翔さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校4年

若林 沙羅さん

千葉県栄町立安食台小学校5年

大野 正紘さん

福岡県大牟田市立高取小学校5年

主計 志恩さん

千葉県栄町立安食台小学校6年

篠田 七星さん

千葉県栄町立布鎌小学校6年

高橋 鉄生さん

【中学生賞】（3人）

千葉県栄町立栄中学校1年

坂本 花佳さん

東京都武蔵村山市立第一中学校2年

堀内 志菜さん

千葉県栄町立栄中学校2年

押木 悦郎さん

【高校生賞】（3人）

大分県佐伯豊南高等学校1年

薬師寺 千帆さん

鹿児島県立川辺高等学校2年

福永 唯里さん

東京都立稔ヶ丘高等学校

（昼夜開講3部制定時制） 4年

飯村 眞由乃さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

認定JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

日本教育新聞社

編集局局長 矢吹 正徳氏

後援 日本教育新聞社

講評

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長
選考を終えて

認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子

今年も素晴らしいあなた達に会えて、私はとてもうれ
しいです。

でも、私は、僕も、小山内さんには会っておりません、
とあなたたちのお顔がそう言っているように見えました。

そうですね。実際には会っていません。でも私の机の上
に皆さんの感想文が乗っています。

小学校の一年生から高校三年生の応募原稿から審査員
の先生方が、公正に、真剣に選んでくださった最終稿の
十四篇です。

そのどれもが、しっかりとした文字で、原稿用紙の枠
目からはみ出しそうな元気いっぱい低学年の児童から、
慎重な筆使いの中学生、そして高校生たちまで、皆さん
の原稿に共通していたのは、ご自分の胸にいっぱいにな
っている思いを一気に書いた原稿だったことです。

受賞はしませんでした。最終選考に残った作品のな
かにもよい感想文がありました。その児童の原稿が、か
なり緊張しているようなのは、おそらく、この児童には、
初めてのボランティア活動だったのでしょう。

ゴミを拾っていたらば、見知らぬ人からいい子だねと
ほめられて驚いたり、それが喜びに変わったたりして、き
れいになったことが、人や街のためになったのだと知っ

て自分に感動している様子が良く分かります。すばらしいことですね。活動をしてこそ味わえる感動ですね。

受賞者の皆さんからは、低学年の児童は寒い中、大変な思いをしながらくじけずに落ち葉掃きのボランティアに一生懸命取り組んでいる姿や、自分が地域でできることは何かを考え、工夫してボランティアに取り組む様子や、先輩から後輩にボランティアを受け継いでいく姿や、自分の特技を使った活動をほめられ自信がついたこと、活動が続ける中で自分の進路を見つけたことなど、皆さんの“宝物”となっている感動や学びを一緒に共有させていただきます。

子どもたちが、子ども時代に育てられる感性や体験からの学びを得られるように大人たちはして欲しいと思います。

受賞者の皆さん、ご受賞おめでとうございます

◆選考委員

ボランティア活動は新たな自分を発見する場

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

子どもたちの活動感想文を読んで、ボランティア活動は、新たな自分を発見する場となっていることを改めて感じました。

感謝されてうれしいと感じる自分、いやだなと思ってもやり遂げた後すがすがしい気持ちになる自分、コミュニケーションが苦手でも周りのかかわりで変化できた自分、ボランティア活動を世の中の出来事の中に意味づけられる自分、周りに影響を与えられるかもしれない気づく自分など、感想文からはうれしい発見の様子が語られています。

そう考えると、ボランティア活動が子どもたちに与える影響の大きさにいまさらながら気づかされます。人はそう簡単には変われないものですが、内なる自分の発見は、大きな自信となり新しい自分の発見や再生につながる可能性を秘めていると思います。

だからこそ、ボランティア活動は、基本的には自ら率先して行うものではありませんが、その体験の機会の有無

が大切だと感じます。少子化で核家族の子育てでは、おのずと保護者だけでは限界があります。学校や、地域全体で、子どもたちのボランティア活動の機会を増やしていくことが大切です。子どもを真ん中に、大人の連帯もまた必要な視点です。

ボランティアの不思議な力

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

このたび、みなさんの「ふれあいボランティア活動感想文」を読ませていただきました。みなさんの頑張った姿がいきいきと伝わってくる文章ばかりで、大変感心しながら読みました。みなさん共通して書いてあったのは、ボランティアを行って人のために尽くしたことが、結果として自分の心をあたたくくしていることです。

「人のために頑張ることが実は自分のためになる」これはボランティアの不思議な力です。そしてこれは今後色々などころで通用する非常に大切な考え方で、それをボランティア活動を通じて学べたことはとても意味のあったことだと思います。

みなさんの頑張った活動を読んで私も心があたたくなくな

りましたし、また自分自身も何かボランティアをしたくなりました。そんな風に「よし私もやってみよう」と思いが伝播していくこともボランティアの不思議な力なのかもしれません。みなさん、これからもぜひ続けてください。そして周囲にボランティアの輪を広げていってください。

地域に広がる視線の伸びやかさ

日本教育新聞社編集局長 矢吹 正徳

ボランティア活動を通じて、子どもたちの視線が地域へと広がっていく伸びやかさに感動しました。

最初は、学校の中でのボランティア活動がきっかけかもしれませんが。でも、勇気を出して地域へと一歩足を踏み出すことで、さまざまな人との出会いや、心の交流が生まれているようです。

街頭での募金活動に自分なりの意義を見いだす生徒や、活動中に何気なく掛けられる「ありがとう」のひとことや笑顔に価値を見いだす生徒がいます。小学校低学年であっても、自分の体を動かしながら「自分事」としてボランティア活動の意味を感じ取っています。

日々の活動の延長として、2020年の東京オリンピ

ック・パラリンピックでのボランティア活動を楽しみにしている生徒もいました。

どの感想文からも、ボランティア活動をきっかけに、自分の人生や社会のことを考え始めている様子が浮かびます。ボランティア活動が日常となるような、そんな社会であってほしいと考えさせられました



受賞作品*児童・生徒の原文に従って作成しています。

【ふれあいボランティア活動大賞】

わたしのボランティア

鹿児島県南九州市立中福良小学校

1年 若林 美優

きょうのあさのボランティアは、とてもさむかったです。手がこおりそうでした。だから、せんせいからさきようなのでぶくろをもらって、ボランティアかつどうをはじめました。

わたしたちの学校では、とう校したら、じぶんたちで校ていをはしたり、ボランティアをしたりします。

きょうもわたしは、校ていを四しゅうはりました。校ていにはおちばが、百まいいじようおちています。じゅうたんみたいにきれいです。わたしは、ほうきをもってきておちばをあつめました。なかなか、おちばがへりません。せんせいにもてつだってもらいました。おちばの山がたくさんできました。

「つぎは、一りん車をもってこよう。」と、わたしは、いそぎました。わたしは、おちばをいっぱい一りん車にいれました。

「よいしょ。よいしょ。」

わたしは、いいながらはこびました。ちりおきばまでもつていきました。へとへとになりました。つぎは、一りん車をもちあげて、ごみおきばにいれなければいけません。

「よいしょ。よいしょ。」

と、いいながら一りん車をたてました。また、

「よいしょ。よいしょ。」

と、おちばをいれました。

わたしは、いつもボランティアをがんばっています。これからもボランティアをいっぱいして、いろいろなところをきれいにしたいです



【小学生賞】

えがおが見れるボランティア

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 山村 悠斗

「ゆうと、しゅうらくの人たちに大切な紙をくばりにいかないか。」ぼくは、じいじからそう言われてちよつといやでした。でも、お母さんから

「ちよつと、いつてみれば。」

と言われたので、行くことにしました。でも、やっぱりさむくて足もいたくなつたから、もう家に帰りたくなりました。

そして、やつと一けん目につきました。そして、ぼくは、

「やつとか。」と、ためいきをつきました。でも、おじいさんとおばあさんがぼくを見て、

「ありがとうね。ありがとうね。」

と言ってくれました。ぼくは、さっきまでの自分が少しはずかしくなりました。でもなんだかやる気が出てきました。

二けん目、こんどは、

「こんにちは。お知らせをもってきました。」

とぼくは元気な声を出しました。すると、おじいさんが、「おりこうさんだね。ありがとう。」

と、ほめてくれました。ぼくは、うれしくなって、つめたかった足もあたたかくなりました。

ぼくは、ボランテИАってみんなのやくにたつものだけじゃなく楽しい気もちになるんだなと思いました。いろんな人のえ顔を見ると、だんだんぼくの顔もえ顔になっていきました。大切なお知らせの紙をくばるおしごとがおわった後も、ぼくは、まだしたかったです。

これからも、人のえ顔が見られるようにいっぱいボランテИАをしたいと思います。

落ち葉はきをして

千葉県栄町立竜角寺台小学校

4年 江村 竜翔

ぼくは学校や公園などで落ち葉はきを友だちといっしょにしました。

ほうきを持ってやり始めてみるとすぐ落ち葉が集まりました。

ふだんあんまり気にしなかったからなのかちやんと見るといたるところに、たくさん落ち葉がありました。

花だんにもあったのでこれは手で取りました。

ずっとやっていましたが次の日次の日と落ち葉はふえ続け毎日やり続けました。

十月の終わりころから始め一カ月たってもまだあり、公園はすぐ終わりましたが、問題はこれからでした。学校はとりにくいところもあり、さらに木があり、外かいだんにも落ち、校門の近くや、坂などいろんなところに落ち、坂が終わったと思うと、校庭の周りをやり、次は外かいだんとやりました。しかも、朝登校して待っている時にやっていたので、よけい終わりづらかったです。そうやってずっとやっても広いので中々終わりませんでした。

そして十一月の終わりに完ぺきにできました。落ち葉がなくなつたその学校や坂、公園はとてもきれいでした。

今回、落ち葉はきをして、何でも毎日コツコツやっていくと一気にやって大変な思いをしなくてすむとわかりました。

そして今年からは毎日やっていこうと思います。終わってすぐいい気持ちになったので他の町をきれいにする取り組みに参加していきたいです。

ボランティアは世界を変える

鹿児島県南九州市立中福良小学校

4年 若林 沙羅

わたしは、学校でボランティアをしています。毎朝のランニングの後、ボランティア活動をしています。

晴れの日は、外で落ち葉集めをしています。雨の日は、教室のまどや、校内のろう下のくもの巣取りをしています。そして、今日やったことをカードにまとめました。

「何のボランティアをしたか。」と「ボランティアをした感想。」を書きました。それを十回ぐらいボランティアをすると、十級から九級に変わることが出来ます。それを、達成出来るように取り組んでいます。

他に、少しちがうボランティアもあります。他の国では、助けられない病気やワクチンを買うためのエコキヤップ、車いすのエコキヤップ、もうどう犬を育てるボランティア。目や体のしょう害者を助けるボランティアと、人助けのむずかしいボランティアもあります。でも、わたしたちには、もうどう犬は育てられないし、他の国へ行って助けることも出来ません。だから、わたしは、出来るだけのエコキヤップを家で集めて、学校に持って行く。そんなことでみんなは、助け合っていく。エコキヤ

ップをワクチンや車いすに変えることが出来ます。エコキヤップを持つていくことは大したことじゃないけれど、みんなが少しでも協力するだけで、世界は変わっていきます。

これからも、みんなで協力して、世界をすくって変えて見せたいです。ぼ金も生活の中で行っています。

助げたい気持ちを・・・。

ボランティア活動を通じての私の成長

千葉県栄町立安食台小学校

5年 大野 正紘 8

ぼくは、ボランティア活動を通じて、初めに考えた事は、この地域には身近な活動がたくさんあるけれど、小学生のぼく達にでも小さな活動をしたら、大きなボランティアになると思いました。

ぼくは今小学五年生です。今の自分が精いっぱいできるボランティアはなんだろうとなやみましたが、まず生きているこの地域の一人として、みんなのためになるような活動からぜひやってみたいと思いました。

そこで自たく周辺にある道路のカーブミラーをみかくことにしました。カーブミラーが曲がっていたり、ひど

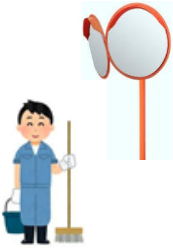
くよっていると、車を運転する人々や自転車に乗る人たちは、大きな事こやげがになることも予想されず。だから少しのよごれでも落とし、きれいにしたり、ミラーの角度を直したりするだけで、ぼくたちやみんなの交通安全につながると思えました。

そして古くなり危険なミラーなどを見つけた時には役場の方々に連らくを入れることもいいと思えました。

「ボランティア」と聞くと災害ふっこうしえんの方々を思いだし、ものすごいハードな仕事を想像すると思いますが、ぼくの小さな活動が地域を安全に守れるなら、これからも続けていきたいと思えました。

また、小さな子どもたちからお年寄りにもみんなの役にたてるような、ボランティア活動を一つでも、多く見つけてこれからも進んでやりたいと思えました。

ぼくは、今住んでいる地域が大好きです。地域の人たち全員が安心笑顔いっぱい生活できますように。



高取クリーンタウンチャレンジ

福岡県大牟田市立高取小学校

5年 主計 志恩

ぼくたち五年生は「高取クリーンタウンチャレンジ」という活動を一学期からしています。この活動をした理由は、地いきからごみをなくし、自然を守っていききたいと思ったからです。

ぼくたちは、学校に登校するときに、通学路のごみを拾いながら登校しています。五年生だけでなく、全校のみんなにお願いして、全員で取り組んでいます。この計画を広げていくには、まずは、ぼくたちのごみを拾っている姿を見せることだと思えました。そこで毎日登校時にごみを拾いながら登校しました。

すると、他の学年の人もごみを拾ってきてくれるようになり、たくさんのごみが学校に集められました。しかし、毎日ごみを拾っていても、落ちているごみは減りません。

ごみをポイ捨てる人もいれば、捨てずに、きちんと持って帰る人もいます。そして、自分のごみは持ち帰るけれど、落ちているごみは、そのままという人もいます。気にせず、ポイ捨てをしている人がい

るかぎり、落ちているごみは減りません。ポイ捨てをし
ている人にぼくたちの活動を知ってもらえたらいいとお
もいます。

みんなにごみを捨てないという心を持ってもらうには、
地道だけれど、今の活動をこつこつ続けていきたいです。
ポイ捨てをする人がいなくて、ごみが落ちていると、自
然と拾える、そんな日本になればいいと思います。

今は、目の前にある「高取クリーンタウンチャレンジ」、
これを一生けんめいやつていきたいです。

見守ってくれてありがとう

千葉県栄町立安食台小学校

6年 篠田 七星

私は、一月四日に北辺田にある天満宮のそうじに行き
ました。天満宮は、私が統合前の三年生まで通っていた
北辺田小学校のすぐ前にあります。校庭からいつも見え
る天満宮。北辺田小の校歌にも「天満宮もほど近く」と
いう歌詞がある位、北辺田に住んでいる人たちにはなじ
みの深い神社です。その神社をそうじすることで、小学
校生活の終わる今、自分をふり返り、まだ小さい頃から
成長を見守ってくれた天満宮に恩返しができたらと思っ

ました。

天満宮には久しぶりに行き、赤い鳥居をくぐる時には
心の中で「おそうじをさせてください」の気持ちをこめ
てお辞儀をしました。天満宮のまわりには、大きな木が
生えています。沢山の枯れ葉やおかしの袋、花火のゴミ
など風で飛ばされてきたものが落ちていました。お母さ
んとそのゴミを拾ったり、枯れ葉をほうきではいたりし
ました。枯れ葉の量があまりにも多くて途中でくじけそ
うになりましたが、お母さんと話をしながらやっただけ
なんとか頑張ることができました。枯れ葉がなくなりほ
うきのあとのついた天満宮はひろびろとして、とてもき
れいになり大変だったけれど頑張つてよかったなと思っ
ました。

最後にまた赤い鳥居に「ありがとうございました。こ
れからも見守っていてください。」の気持ちをこめてお辞
儀をしました。

そしてそのまま北辺田小に行き、お母さんと今年の目
標を言いました。私の今年の目標は、「早ね早起きをして、
苦手な算数を頑張る。そして、春には中学生になるので
一日一日を大切に過ごすこと」です。有言実行になれる
よう意識していきたいです。

私が、このボランティアを通して感じたことは、地域
の大切さと大きくなった自分を支えてくれた人への感謝
です。これからも、感謝の気持ちを忘れないようにして
いきたいと思えます。

バスの中は、ぼくらに任せて

千葉県栄町立布鎌小学校

6年 高橋 鉄生

ぼくは、町の循環バスを利用して通学しています。朝
は、病院へ行くお年寄りや勤めに行くお客さんたちなど、
いろいろな人も利用しています。

ぼくたち六年生や同じ高学年の五年生は、みんなが安
全に乗っていけるように、バスの中でリーダーシップを
とっていくことを心がけています。つまり、ぼくたち高
学年は、つねにバスの中に目を光らせているのです。

自分たちがすすわっていても、お年寄りが乗ってきたら、
すぐ席をゆずります。また、一年生や二年生についても、
席が空いていたらすわらせるようにします。お年寄りや
体の小さい低学年がたおれてしまったら大変だからです。

乗ってくる人が増え、お客さんの数が多くなると、二
年生や三年生が立つこともあります。その時は、しっか

りと手すりにつかまらせて、転ばないようにさせてやり
ます。そして、ぼくたち高学年がそばに立って、支えて
やることも忘れないようにしています。

それから、バスの中で、大声を出したりしないように
気をつけさせています。ふざけりしていたら、運転士の
さんの気が散って、運転にえいきようが出たらたいへん
です。だから、こんでいる時もすいている時も静かに乗
っていられるように注意しています。以前は「シート！」
と口の前に人差し指を立てて注意することがありました
が、最近では少なくなりました。

バスの中で高学年が低学年を守ることは、ぼくが一年
生に入学した時、高学年の人たちがやってくれたこ
とです。その活動が毎年引きつがれているのです。



【中学生賞】

ボランティア活動を通じての私の成長

千葉県栄町立栄中学校

1年 坂本 花佳

私はふれあいボランティアパスポートに書くために毎日机ふきの仕事をすることにしました。どうしてその仕事にしたかと聞かれたら、最初に「楽だったし、適当にきめた」といつていたと思います。内容は食事の後にぬれたタオルで机をふく、ただそれだけです。

私の家のルールでは食器運びや雨戸を閉める等、仕事の当番が決まっています、その仕事をするのがあたりまえだったので、仕事をして思うことも「ありがとう」という言葉を意識することはありませんでした。少し変化があったのは当番以外の仕事をして喜ぶお母さんの顔を見てでした。家にいる時間の中で三分もかからない仕事を一つやるだけで、意識して聞いてみた「たすかったよ。ありがとう」の言葉はいつもいわれていた言葉と全く違った外国の言葉のようで、うれしく思いました。一回、その魔法の言葉を聞いただけで他の仕事もやってみようと思えました。お手伝いの内容はどんどん増えていったし、達成感と充実感もどんどん積み重なっていくのです。

ボランティアパスポートに書ききれなくなるのも早く、どうしてその仕事にしたかと聞かれたら「楽」だからよ「楽」しいからと言えます。

私はボランティアパスポートをうめるためだけに始めたお手伝いで、言葉の大切さについて学びました。一見、全く関連していないようだけれど、何を学んだかと考えてみると「ありがとう」と言う言葉がきっかけで変われたと思っっています。言葉はどこでも、どんな場面でも使われているため、言葉の影響力は何よりも大きく、人の心を動かせるものです。たとえ、そのきっかけがお手伝いでも例外には決してなりません。

周りにとびかう言葉、自分に向けられた一言で、自分が変わるチャンスになります。作文用紙二枚分の言葉で私の考えが伝わるのも言葉のおかげです。

笑顔

東京都武蔵村山市立第一中学校

2年 堀内 志菜

「ありがとう。」この言葉と、まるでハッピーセットのように一緒についてくる笑顔に勝る者はない。私はそう思う。消極的で人見知りな私の殻を破ってくれたのも、

他人を笑顔にするのはとても素敵なことだ、と思わせてくれたのも、ボランティアに参加したというちよつとしたことだった。

ある日、生徒会活動の一環として市内にある学校のお祭りのボランティアに参加した。私は、ヨーヨー釣りの出店の手伝いを担当していた。その学校は、障害を持っている方々が通っている学校だったので、受付で分かりやすくやり方の説明をしたり、上手く取れるように手伝う、ということをした。すると、全く知らない人同士なのに、「ありがとう」と言われた。相手にとっては何気ない言葉であつたと思うが、私は驚いた。その時の私は感謝するということを忘れかけていたからだ。

その時にふと感じたことがある。それはその人の顔がとても嬉しそうだったということだ。なぜだかこちらも嬉しくなった。その日から私はボランティアに積極的に参加するようになった。

私は、ボランティアに参加するようになってから、たとえ赤の他人でも、人を笑顔にすることが誇りに感じた。また、ボランティアを通して、人に気を使えるようになった。例えば、友だちが何かなくて困っていたときにはそれを貸してあげるといふ些細なことから、落ち込んで

いたら、励ましてあげる、などが誰かに言われてではなく、自分からできるようになった。これは、おそらくボランティアに参加していなかったらできていなかっただろう。

そういったことを考えると人助けとは、人が幸せになるし、自分が成長するきっかけにもなるとも素敵なことだと思う。またこれからも自分の手で、人の「笑顔」を作っていきたい。

今、わたしにできること

千葉県栄町立栄中学校

2年 押木 悦郎

「明日の部活は、ふれあいまつりの手伝いだからね。」

一年前、部活の延長のような気持ちで参加

した住民活動ふれあいまつりの手伝いに、

今年も参加することができた。

去年は模擬店の手伝いを、

今年はずーじの司会

進行をまかせてもらった。



手渡された原稿の確認をしていると、どれだけ多くの人が住民活動に参加しているのか良くわかる。開会式にはじまり、各種団体の発表や展示、その司会やお知らせの館内放送をするのが自分の仕事だ。閉会式まで、責任重大だと思っていた。

緊張しながらも司会をしていると、ステージ上の踊りや演奏の中に、近所や通学途中で顔を合わせる人を見つけた。お互いに緊張しているのがわかり、おかげで少し安心できた。

休憩中にまわった展示コーナーでも、声を掛けてくれる人がいて嬉しかった。差し入れにコロツケを貰って、後半まで乗り切ることができた。そして毎年みなさんが楽しみにしてくれている「よさこいソーラン」を中学生の参加者全員で披露することができた。

私がボランティアに参加することを高いハードルだと感じなかったのは、部活の延長線でこのふれあいまつりに参加できたからだと思っている。誰かの役に立てるのならば手伝いに参加しようと思っただけで、変に構えたり、気後れすることがなかったからだ。

手のあいた時に、自分にできることをする。誰かのためだけではなく、自分自身が楽しみながら参加してもボ

ランティア活動として成り立つことを、もっと多くの人に知ってもらいたいと思っている。

そして、「また、お願いね。」と、言ってもらえるような、今の私にできる事を続けていきたいと思うと同時に、来年の参加を心待ちにしている自分がいる。

【高校生賞】

ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

大分県立佐伯豊南高等学校

1年 薬師寺 千帆

昨年、私の住んでいる津久見市は台風により大きな被害を受けました。

台風の翌日外に出てみると今までに見たことのない風景が目の前に広がっていました。幸い私の家は被害が全くありませんでした。交通機関も使えなかったため学校を休んだのですが、こんな中で家でくつろげるわけもなく、被害の大きかった友達の家の手伝いに行くことになりました。行き道もどろやがれきであふれていて、車で通るのもとても大変でした。

友だちの家につき、そこをみると想像をはるかに超える被害の大きさに言葉も出ませんでした。そこは、昔か

らのお店のたくさんある地域だったので、その分町の人
のダメージも大きく、大変でした。

私を手伝いをした家はお店ではありませんでしたが、
水浸しでどろも多かったです。作業を進めていくと家具
もほとんどどろにまみれていて、たみは全て使えなく
なっているという先の見えない状況で疲れもたまってい
きました。そんな中、近所の方がお手伝いに来てくれま
した。皆、励まし合いながら懸命に作業を進め、だんだ
んおわりが見えはじめました。途中、隣の家の方から差
し入れをいただいたり、皆で話しながら作業をしたり、
楽しい雰囲気でお手伝いをおえる事ができました。

私がこの経験を通して感じたことは、人との繋がりの
大切さです。一人では不安で苦しい作業もコミュニケー
ションをとりながら行なうことで明るい気持ちでするこ
とができました。更に、前よりもっとふるさとを大事に
思うようになりました。

今後、何かあった時は周りの人と協力
すること、人の温かさをしっかり感じるこ
と、感謝の気持ちを忘れないことを心がけ
ていきたいです。



自信

鹿児島県立川辺高等学校

2年 福永 唯里

私の通っている学校の近くで毎年、二日市という買い
物市が開催されます。その二日市で書道部に所属してい
る私は、来て下さった方々に文字を書いてプレゼントを
するというボランティアをしました。

当日は不安でいっぱいでした。きれいに書けるか、来
て下さった方とコミュニケーションはとれるか、人は来
てくれるのかとたくさんありました。でも実際にやって
みると不安はすぐに無くなりました。たくさんの方が来
て下さり、コミュニケーションをとることができました。

私はそんなに字を書くのが得意ではありません。その
場で書いてプレゼントするので失敗したりすることもあ
りました。それでも来て下さった方にプレゼントしたら
「きれいだね」「ありがとう」という事をたくさんの方に
言ってもらえました。字が上手く書けなくても来て下さ
った方は喜んでくれて嬉しそうに帰っていきました。嬉
しそうに帰っていくのを見てたら私まで嬉しくなりまし
た。自分の字で来て下さった方々に喜んでもらえて少し
は自信ができました。

今までだったら人に字を書いてプレゼントすることはできなかったと思います。来て下さった方が笑顔になって喜んでくれたから自信が付き楽しくボランティアをすることができました。

今までは書道部でありながら自分の字に自信が持てなかったが今回のボランティアで多くの人に褒めてもらえたのでこれからは堂々と自信を持って字を書きたいです。

小学生との関わりが高校生を成長させてくれた

東京都立穂ヶ丘高等学校

4年 飯村 眞由乃

私は昨年度から児童館でボランティア活動をしていきます。この活動のおかげで、私は様々な面で成長することができました。

活動を始めたきっかけは、卒業に必要な単位をボランティア活動で補うためでした。私には弟も妹も居らず、小学校低学年の子どもと関わったことも数える程しかなかったため最初はとても不安でした。何をすべきか分からず、立ち尽くしてしまいう事も多々ありました。

活動を週2〜3回のペースで続けていくうち、少しずつ子ども達と打ち解けて、自分から声をかけたり気軽に

お話しができるようになり、どんどん子どもと関わるのが楽しくなりました。

その頃に職員の先生に「前より自主的に行動してるね」と言ってもらえたことが、成長できたんだと自覚できてとても嬉しかったことを覚えています。

児童館でボランティア活動を始める以前の私は子どもと関わることは苦手だと感じていたため、児童系の進路は考えたこともありませんでした。ですが、活動を続けていくにつれて、子どもと関わることの楽しさややりがいを感じるようになりました。更に先生方に児童館職員に向いていると褒めて頂くことが多くなり、児童系の進路を目指すようになりました。そして、今までの活動の経験を活かして児童系の大学にAOで合格することができました。

約一年間の活動をふり返ると、楽しい事や嬉しい事はもちろん、辛い事もあって、私の高校生活に本当に沢山の刺激や発見を与えてくれました。その中で責任感や行動力といった点で大きく成長することができたと思います。私の人生でかけがえのない経験です。



平成29年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト
 学校159校・8団体 参加児童・生徒数46,986人

1	北海道	千歳市立向陽台小学校
2		NPOまち工房・元氣1
3	青森県	弘前市岩木児童センター
4	岩手県	盛岡市立月が丘小学校
5		盛岡市立府川中学校
6	宮城県	仙台市立七尾田小学校
7		鹿角市立花輪北小学校
8		鹿角市立花輪北小学校
9		鹿角市立平元小学校
10		鹿角市立十和田小学校
11		鹿角市立末立小学校
12	秋田県	鹿角市立大湯小学校
13		鹿角市立草木小学校
14		鹿角市立去沢小学校
15		鹿角市立八幡平小学校
16		鹿角市立花輪第一中学校
17		鹿角市立花輪第二中学校
18		鹿角市立十和田中学校
19		鹿角市立尾去沢中学校
20		鹿角市立八幡平中学校
21	山形県	山形県新庄立新庄中学校
22		山形県立高ヶ浦高等学校
23		山形県立山辺高等学校
24		山形県角形町立角形小学校
25		山形県角形町立角形中学校
26	舟形町中央公民館	青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」
27		棚倉町立津川小学校
28	福島県	棚倉町立社川小学校
29		棚倉町立高野小学校
30		棚倉町立棚倉小学校
31		棚倉町立山岡小学校
32		棚倉町立棚倉中学校
33	茨城県	茨城県水戸市立向和町小学校
34		つくば市立基福第一小学校
35		新島町立阿久戸小学校
36		茨城県立高ヶ浦高等学校
37		春日部市立豊春中学校
38	埼玉県	越谷市立中央中学校
39	東京都	栄町立安倉小学校
40	福祉協議会	栄町立布津小学校
41		栄町立安倉小学校
42	栄町教育委員会	栄町立竜巻寺台小学校
43		栄町立栄中学校
44		市原市立青葉台小学校
45		千葉県立京葉高等学校
46	千葉県	文京区立第八中学校
47		墨田区立両国中学校ボランティア部
48	千葉県	品川区立小中一貫校日野学園
49		品川区立小中一貫校荏原学園
50		品川区立品川学園
51		品川区立城南小学校
52	千葉県	品川区立荏原第五中学校
53		目黒区立目黒小学校
54		目黒区立第八中学校
55		目黒区立目黒中央中学校
56		世田谷区立福田中学校
57		世田谷区立用賀中学校
58		豊島区立栗小中学校
59		豊島区立早小中学校
60		尾久六に二にこすくろ
61		板橋区立舟渡小学校
62		板橋区立高島第二小学校
63		板橋区ジュニアリーダー会
64		練馬区立旭丘小学校
65		練馬区立光が丘第四中学校
66		八王子市立宮上小学校
67		昭島市立つしげ丘南小学校
68		小平市立小平第六小学校
69	東京都	小平市立小平第八小学校
70		小平市立小平第十四小学校
71		小平市立学園東小学校
72		小平市立花小金井南中学校
73		東大和市立第三中学校
74	東京都	武蔵村山市立第一中学校
75		武蔵村山市立小中一貫校村山学園
76		東京都立南大沢中学校
77		東京都立六本木高等学校
78		東京都立松ヶ丘高等学校
79		東京都立練馬高等学校
80		東京都立東久留米総合高等学校(全日制1年生)(夜間部)
81		東京都立永山高等学校吹奏楽部
82		専修大学附属高等学校
83		横浜市立岡村小学校
84		横浜市立新井中学校
85		横浜市立境木中学校
86	神奈川県	茅ヶ崎市立松浜中学校
87		神奈川県立新羽高等学校
88		湘南国際アカデミー高等部
89		NPO法人湘南ライオン会・みずな学習支援プロジェクト

90	新潟県	FA 柏崎市立第二中学校
91		FA 新潟県子ども発達協議会
92		FA 関市立金竜小学校
93		FA 関市立小金田中学校
94		関市立田原小学校
95		関市立武芸小学校
96		関市立武芸西小学校
97		関市立上之原小学校
98		関市立坂取川中学校
99		関市立高野中学校
100		関市立津保川中学校
101		関市立津保南中学校
102	静岡県	袋井市立袋井南中学校
103	愛知県	愛知県立春和高等学校
104	大阪府	FA 松原市立松原第五中学校
105	高知県	高知市立一宮小学校
106		FB 高知県立高知東高等学校
107	山口県	FA 山口市立湯田中学校
108		小都市立味塚小学校
109		小都市立小部小学校
110		小都市立御原小学校
111		小都市立立石小学校
112		小都市立三国小学校
113		小都市立大原小学校
114		小都市立東野小学校
115		小都市立のぞみが丘小学校
116		小都市立宝城中学校
117		小都市立大原中学校
118		小都市立立石中学校
119		小都市立小部中学校
120		小都市立三国中学校
121		福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
122		福岡県
123		大牟田市立白小中学校
124		大牟田市立立見小学校
125		大牟田市立豊島南小学校
126		大牟田市立豊島北小学校
127		大牟田市立美の原小学校
128		大牟田市立玉川小学校
129		大牟田市立大牟田中央小学校
130		大牟田市立大正小学校
131		大牟田市立中友小学校
132		大牟田市立明治小学校
133		大牟田市立白川小学校
134		大牟田市立平原小学校
135		大牟田市立高取小学校
136		大牟田市立羽山台小学校
137		大牟田市立銀太小学校
138		大牟田市立上下小学校
139		大牟田市立吉野小学校
140		大牟田市立倉永小学校
141		大牟田市立手塚小学校
142		大牟田市立宮原中学校
143		大牟田市立松原中学校
144		大牟田市立橋中学校
145		福岡県立ありけ新世高等学校
146		糟野市立久間小学校
147		糟野市立轟小学校
148		糟野市立大野原小学校
149		糟野市立大塚野小学校
150		糟野市立糟野中学校
151		糟野市立大野南中学校
152		糟野市立吉田中学校
153		糟野市立神埼小学校
154		糟野市立西郷小学校
155		糟野市立響振小学校
156		糟野市立千代田西部小学校
157		糟野市立千代田中部小学校
158		糟野市立千代田東部小学校
159		糟野市立仁比山小学校
160		糟野市立神埼中学校
161		糟野市立響振中学校
162		糟野市立千代田中学校
163	長崎県	糟野市立仁田小学校
164	大分県	大分県立佐佐木高等学校
165	鹿児島県	鹿児島市立中央小学校
166		鹿児島市立田辺高等学校
167	沖縄県	沖縄県立中部農林高等学校

○：ふれあいボランティア/パスポートフレンズ(A/B)
 (FA)：教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポートを使用して参加したいです。
 (FB)：ふれあいボランティア/パスポート欄を使用せず、申込時の参加人数を寄付団体数で分けて、寄付のみに参加したいです。
 ◇教育委員会よりまとめた団体
 縦丸、管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて、参加したいです。

後援：日本教育新聞社

平成 29 年度ふれあいボランティア活動感想文集

平成 30 年 3 月発行

認定 N P O 法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 5 階

認定 N P O 法人さわやか青少年センター事業所

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp